

遠野 2019年9月24日

## 10月29日発売！「一番搾り とれたてホップ生ビール」仕込式の様子をレポート



日本有数のホップ産地・岩手県遠野市で今年収穫されたばかりのホップ「IBUKI」を使用した「一番搾り とれたてホップ生ビール」が、10月29日より数量限定で発売されます！

その発売に向けて、9月10日、キリンビール仙台工場にて仕込式が行われました。発売16年目を迎える今年は、どんな仕上がりになるのでしょうか？



東北の人々の想いが詰まった仕込式

実は、「一番搾り とれたてホップ生ビール」は、東北の人々にとって、そしてキリンビール仙台工場にとって、特別な思い入れのあるビールです。

2011年3月11日、東日本大震災により大きな被害を受けた東北地方ですが、仙台工場も例外ではありませんでした。ビールを貯蔵するタンクが4基も倒壊し、敷地内には海水によって流された大量の缶やビンが散乱するなど、製造を続けられる状態ではなくなってしまったのです。

しかし、協会会社の皆さんと仙台工場の従業員の必死の復旧作業により、当初の予測をはるかに上回るスピードでビール製造を再開することができました。そして、再開後初めて製造する商品として選ばれたのが、「一番搾り とれたてホップ生ビール」だったのです。仙台工場の従業員はみんな、毎年特別な思いで仕込式を迎えています。



#### 「遠野ホップ収穫祭2019」で手渡されたホップ

今年の仕込式に先立って、8月24日に遠野市で実施された「遠野ホップ収穫祭2019」のオープニングイベントでは、ホップパトバス式が行われました。式では、遠野ホップ農業協同組合の佐々木組合長と遠野市の高校生の生徒さんから、仙台工場の谷川副工場長と今年の「一番搾り とれたてホップ生ビール」の醸造担当責任者の竹尾技術員にホップが手渡され、収穫したばかりの立派なホップを見て、今年も絶対においしいビールをつくろうと、関係者一同、想いを強くしました。



キリンビール仙台工場 荒川工場長

### 仕込当日の様様をレポート！

仕込当日は、まず荒川工場長が登壇し、10月29日の発売に向けて「遠野産ホップのみずみずしさと香りを閉じ込めて、今年もおいしいビールにしたい」と抱負をコメント。続いて、遠野市の本田市長より、<ホップの里からビールの里へ>を合言葉にビールを軸にしたまちづくりを推進する「TK（遠野×キリン）プロジェクト」が、しっかり成果を出しているのを実感しているとお話しいただきました。



遠野市 本田市長

その後、いよいよ仕込室に移動して、ホップを投入！ご来賓の皆さまと一緒に、ビールが良い仕上がりになることを願いました。メディア取材を受けた本田市長は「一番搾り とれたてホップ生ビール」を通じて、「遠野の魅力を知ってほしい」と話し、大きな期待を寄せました。



佐々木組合長 乾杯

会場に移動して行われた懇親会では、遠野ホップ農業協同組合の佐々木組合長が、「いろいろな人に『今年のホップの出来はどうか?』と聞かれますが、『今年もバッチリです!』と答えています」と笑顔で乾杯のご挨拶をいただきました。和やかな雰囲気の中、会場の皆さんにビールや遠野の食材を使用したお料理を味わっていただきました。



東北統括本部 杉山本部長

式の最後は、キリンビール東北統括本部 杉山本部長が登壇。ホップ農家の皆さまや関係企業の皆さま、遠野市の皆さんにあらためて感謝を述べ、ビールの里・遠野のますますの発展を願った一本締めで式は幕を閉じました。



仙台工場醸造エネルギー担当 竹尾技術員

### 醸造担当責任者の想い

とれたての遠野産ホップ・IBUKIを生のまま急速凍結させて使用することで、畑でとれたホップのみずみずしい香りをそのままビールで感じられるのが特徴の「一番搾り とれたてホップ生ビール」。今年の醸造担当責任者である竹尾技術員は、「みずみずしい香りを引き立てられるよう、ホップの使用方法を工夫しながら、いつも遠野で高品質なホップを生産いただいていることへの感謝をしっかりと込めてつくっています」と話します。

「一番搾り とれたてホップ生ビール」を毎年心待ちにして下さっているファンの皆さま、今年の仕上がりも楽しみに、10月29日の発売をお待ちください！